

インド洋の海賊行為「ハイリスク海域」の縮小

こちらは、英文記事「[Indian Ocean piracy 'High Risk Area' reduced.](#)」（2021年8月30日付）の和訳です。

ソマリアでの海賊行為の減少傾向が続いていることにより、主要海運団体はインド洋における海賊行為の「ハイリスク海域」の地理的境界を縮小することを決定しましたが、この海域を通過する船舶は引き続き警戒し、海上安全環境の変化に注意する必要があります。



2021年8月17日、世界の海運・石油業界を代表する BIMCO、ICS、INTERCARGO、INTERTANKO、および OCIMF は、インド洋での海賊事件が減少し続けていることから、同地域の海賊行為ハイリスク海域（HRA）の境界縮小に合意したと発表しました。この変更は **2021年9月1日** に発効され、HRA の境界は大きく言うとイエメン領海とソマリア領海、およびその東部・南部の排他的経済水域に縮小されます。

共同プレスリリースのコピー（下に示す、変更後 HRA のマップと正確な経緯度情報を含む）は、[Maritime Global Security ウェブサイト](#) の「Red Sea, Gulf Of Aden, Somali Basin, Arabian Sea（紅海、アデン湾、ソマリア沿岸、アラビア海）」セクションからダウンロード可能です。



The new coordinates of the HRA are:

- From position A (Latitude of 01° 30' S on the Somali coast), a line to
 - position B (01° 30' S – 046° 00' E), then a line to
 - position C (01° 00' N – 049° 30' E), then a line to
 - position D (09° 00' N – 055° 00' E), then a line to
 - position E (14° 20' N – 057° 30' E), and then a line to
 - position F (the Yemeni coast at longitude 053° 00' E).
- From position F, follow the Yemeni coast westwards and northwards, to
 - position G (the Yemeni Red Sea coast at latitude 15° 00' N), then a line to
 - position H (the Eritrea territorial sea border at latitude 15° 00' N).
- From position H, follow southwards along first Eritrea's, and then Djibouti's, territorial sea borders, to Position I (the coastal border point between Djibouti and Somalia).
- From position I, follow the Somali coast eastwards and then southwards, to Position A.

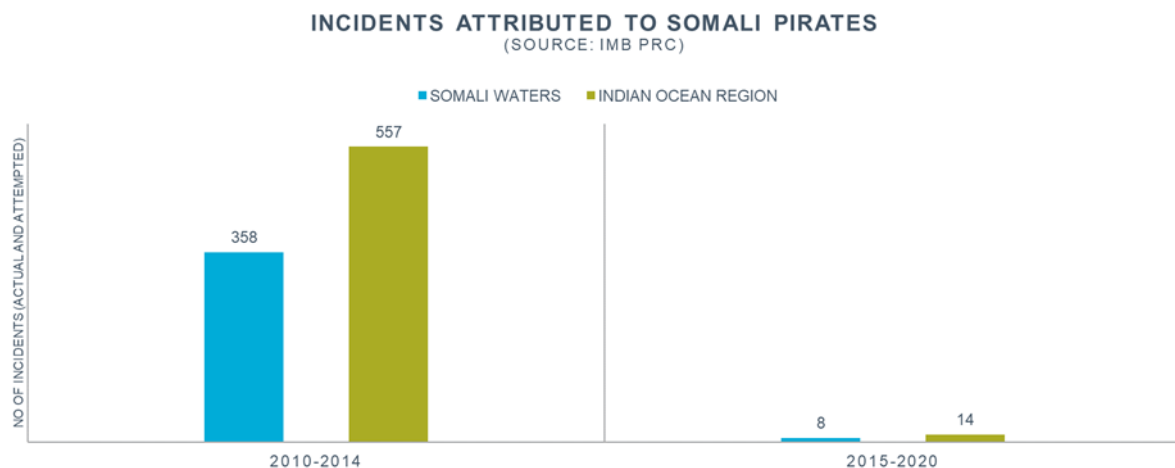
しかし、インド洋地域の地理は多様であり、バブ・エル・マンデブ海峡やホルムズ海峡等の狭いチョークポイントから、ソマリア沿岸の大きく開いた海まで多岐にわたっています。各地域にそれぞれ難

所があり、脅威はさまざまです。したがって、ソマリアの海賊行為に関する限り、HRA 境界の縮小は望ましい方向への一步を示すものといえますが、インド洋海域を通過するすべての船舶は、今後も引き続き警戒し、海上安全環境の変化に注意することが推奨されます。準備と計画が肝要であり、有効な安全対策を講じなければ深刻な結果が生じ得ることを忘れないでください。

ソマリアの海賊行為

HRA は、ソマリアの海賊行為の脅威が最も高まった 2010 年に、船主や運航者、船員に海賊の活動地域と、脅威を避けるのに特別な警戒を要する地域を示すために作成されました。その後の更新により、HRA はソマリア海賊の活動抑制の成功等、当該地域における脅威の変化を反映してきました。

IMB PRC によると、インド洋地域でのソマリア海賊による総攻撃数は 2011 年に 237 件を記録して最大となり、2010 年から 2014 年の 5 年間で 557 件に急増しました。この数値は 2015 年から 2020 年の 6 年間ではわずか 14 件に急減しており、海上犯罪を減らすための共同の取り組みの成果として広く認められています。本稿の執筆時点では、ソマリア海賊グループは 2017 年以來、商船への攻撃に成功していないと報じられています。



注意点

- ソマリアの海賊行為は減少しているとはいえ、IMB PRC は、ソマリア海賊が引き続きソマリア沿岸およびインド洋広域で攻撃を実行する可能性があるとして警告しています。また、ソマリア海賊は自動小銃や携帯式ロケット弾（RPG）で完全武装していることが多く、乗っ取った漁船やダウ船を母船にして、そこから小型ボートを発進させることが知られています。このため、すべての商船は上記海域を通過する際に、海運業界の最新ベストマネジメントプラクティス（BMP）の勧告を遵守することが推奨されます。
- HRA は、BMP に記載の「自主通報海域」（VRA）として示される地域の一部にすぎません。船舶は海事保安センター・ホーン・オブ・アフリカ（MSCHOA）に登録し、この地域に入る前に英国海軍商船隊司令部（UKMTO）に報告することが推奨されます。
- 脅威は動的であるため、運航前のリスク評価で VRA および HRA における現在の脅威に関する最新情報を考慮する必要があります。船舶は BMP の付録 A に記載の組織から情報を入手し、航海警告や軍隊の示す脅威を避けるため、急な通告であっても計画航路から外れて航行できるように準備しておいてください。
- イエメン紛争により、南紅海およびバブ・エル・マンデブでは海賊行為以外にも海上保安上の脅威が発生しています。この地域を通過する船舶は、海軍が駐留して監視活動に注力するために軍隊が設置した航路帯である、海上警備航路帯（MSTC）を利用することが推奨されます。

先頃変更された HRA の境界は BMP の措置実施にのみ関わっていることにも注意してください。インド洋地域は戦争委員会連合（JWC）にもリストアップされており、IBF/ITF 船員協約のハイリスク地域でもありますが、これらの地域の位置／境界は海賊行為の HRA とは一致していません。

Gard のウェブページ「[Piracy and armed robbery at sea（海賊行為と海上武装強盗）](#)」には、運航者、船長、船員が海賊行為や武装強盗の攻撃に対して警戒、準備、対応するのに役立つ関連ウェブサイト、ガイドライン、Gard 資料へのリンクを記載しています。イエメンの港湾および適用される出港手続きについての情報は、当社ウェブサイトの「[イエメン-港湾の状況について](#)」をご覧ください。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。